

## 令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月20日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○極めて高いレベルの文武両道の実現 ・「見える学力」を育む ・「見えない学力」を育む  2つの学力を涵養し、「国際社会のリーダー」に必要な資質を培う教育課程を編成し、全職員の共通認識の下、生徒を育成する。	①「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践の共有を教科の枠を超えて推進する。  ②特別活動や生徒会活動における運営能力、多様な関係の中での対話力、包括的に受容し新たな道を切り開くリーダーシップを育成する。	①生徒の理解を深め、より高度な思考を育成するための教材やICTツールの効果的な使用法について、授業研究会などを通して共有する。  ②生徒が学校行事や部活動等に安心して全力を注ぐことができる環境を整備し、後押しする。	① Teams の教科フォルダを整理し、効果的に活用できたか。  ●ICTツールに関する研修会を年3回実施したか。  ② 各行事において、生徒及び職員を対象としたアンケートを活用し、生徒及び職員の抱える課題を解決する手立てを考えることができたか。  ●各部活動において、部員及び顧問の抱える課題を集約する手立てを示し、解決に向けた方策を立案することができたか。	① ●Teams の整理については、全教科にて概ね完了し、今後も継続して運用していく体制が整った。 ●ロイロノートスクールについて、校内研修会を各定期考查を機に実施した。校外研修についても授業力向上WGとの協力で、参加を促し、研修を進めることができた。  ② ●生徒と職員間の連携を密にし、生徒が主体となって行事や部活動を実施できるように、大方進めていくことができた。体育祭については、強風のために、生徒の安全面を考慮し、準備計画の変更と実施を順延するなど、臨機応変に対応した。	① ●Teams のその他のアプリケーションについても職員全体へ浸透させることが継続した課題であるが、職員全員の理解を得ることが難しい。Teams の円滑な利用方法、規制等を明確にし、職員に周知する機会を設けるよう努めたい。 ●ICTツールについては校内研修のさらなる充実、校外研修の周知に継続して努めたい。  ② ●生徒一人ひとりの個性や特性を踏まえた集団活動の在り方を工夫した取組みが見られた。熱中症予防等、以前にも増して考慮すべきことがあるが、安全安心な環境の確保に留意し、生徒と教職員との連携により一層力を注いでいただきたい。	① ●新規導入の電子黒板をはじめ、教育活動でICTツールが積極的かつ効果的に活用されている。10月の授業研究会における各授業では、「主体的・対話的で深い学び」が実現され、大きな前進が見られた。  ●専門的な研修等を通じて、職員のICTスキルの更なる向上を継続して図っていただきたい。  ② ●生徒一人ひとりの個性や特性を踏まえた集団活動の在り方を工夫した取組みが見られた。熱中症予防等、以前にも増して考慮すべきことがあるが、安全安心な環境の確保に留意し、生徒と教職員との連携により一層力を注いでいただきたい。	① ●授業研究会の充実を図るべく、今年度は分科会形式を導入した。その結果、協議も活性化し、課題等がより明確になった。今後も継続して行い、参加率を増やしていくよう促していく。  ●電子黒板等、ICTツールに関する校内研修会を定期的に実施できる。外部機関によるICTツール研修会にもオンラインで一部の教員が参加しており、研修で得た知識を全体へ共有できる場を提供できるようしていく。  ② ●生徒主体の学校行事や部活動等の運営を尊重しつつ、生徒任せにならないよう、生徒と教員間の連携をより強化し、生徒との関わり方を考えて整理していく。	① ●校内授業研究をより組織的に進めるために、今年度は4教科による授業実践を行ったが、より多くの授業を参観できるように、5教科以上で実施できるよう働きかけたい。  ●ICTツールの研修会を年3回行っているが、内容の整理が必要である。授業力向上WGと連携して、より充実した研修を追求したい。  ② ●生徒主体の学校行事や部活動等の運営を尊重しつつ、生徒任せにならないよう、生徒と教員間の連携をより強化し、生徒との関わり方を考えて整理していく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①リーダーにふさわしい素養を養う。心豊かで他者を尊重できる人間性と自律的・主体的な態度を育てる。  ②学校生活の安全・安心を第一優先とし、生徒が抱える多様な課題に迅速かつ計画的、組織的に対応する。	①生徒が、人としてどう行動すべきかを自ら考え実践していくよう、全職員で指導・支援していく。  ②学校生活の全体的な問題と、個別の生徒の課題を把握、共有し、課題の解決に向けて対応する。	①何事にも主体的に取り組み、支え合いながら切磋琢磨し、最後までやり抜くことを通して人間的な成長をめざす。  ②生徒を取り巻く環境について理解を深め、適切に情報共有しながら、全職員が様々な立場から生徒を支援する。	①リーダーに必要な、自律的で他者を思いやれる態度やマナーを身につけさせていく様子が見られた。  ②問題把握と課題解決に向けて、報告・連絡・相談が円滑に行われ、迅速で効果的な対応ができたか。	①日常的な活動、更に各学校行事を通して、自分の在り方から他者への関りなどが自然につながっていく様子が見られた。  ②多様な悩みや生きづらさを持つ生徒に対して、その状況を共有し支援していく方向を、複数の職員で検討し実践した。	①全体として、自己を高めようとする意識は高いが、登下校時など、公共の場面でのマナーに欠ける行為も見られた。校外でも自分と周囲の人々について、考えて行動させたい。  ②問題把握については、かなりの成果を上げているが、SNSの運用状況など、なかなか掴めないところの問題には苦慮している。	①地域・公共の場でマナーや高齢者への配慮等、社会の一員としての自覚を持ち、自律して行動できるよう、効果のある具体的な指導方針の策定をお願いしたい。  ②多様な生徒の課題解決と支援に向けて、外部機関等との連携を含め、組織的な対応の更なる充実を図ってほしい。SNSについても、啓発活動の継続に加え、生徒間で課題意識を深める場の設定等も必要ではないか。	①校内においては、人として高校生としてどう行動すべきかについて成長も見られるが郊外での通学マナーなどについては課題が残っている。  ②生徒情報の共有について成果を上げている。その後の支援を外部機関との連携も含めて、広げていく必要もある。	①高校生も社会の一員であり、その中で将来のリーダーとしてふさわしい言動についての意識を高めていかなければ課題が残っているように働きかけたい。  ②●生徒情報の共有・支援の方法を組織として更に広げていく。 ●生徒会と連携し、SNSとのより良い関わり方等について、生徒一人一人に考えさせたい。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月20日実施)	総合評価(3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒が自ら掲げた高い目標を最後まで諦めさせないことを目指し、計画的かつ柔軟な進路支援を実施する。	①生徒対象アンケート、模試、定期試験等のデータを過去の大学入試結果と合わせて分析して作成した資料を面談に生かすとともに、進路講演会等を効果的に実施する。	①生徒が、自身にとって価値ある進路を実現できるよう、生徒の状況を適切に把握し、進路説明会、進路通信等を活用して情報提供や励ましを行う。  ②進路支援グループが環境を整備し、学校と家庭が一体となって生徒の進路実現を支える。	①各学年にて、進路説明会、保護者懇談会、2者面談（3学年は3者面談）などの機会に情報提供や励ましを行った。4月、10月に生徒アンケートを行い、その分析結果を職員間で共有し、生徒にも還元した。  ②6月に全職員向けの研修会を行い、昨年度の3年生の3年間の成績や学校生活に関するデータを中心とした情報の共有を行った。その他、生徒向けの進路通信を全職員に配付するなどして、情報を共有した。	①情報の共有が、学年間にとどまっているので、学年を超えたグループでの情報共有を行い、見通しを持った支援を行いたい。  ②グループとして情報発信は行っているが、グループ外の職員の進路についての考えを聞く機会が少ない。様々な職員の話を聞いたり、全体で話ができる場を設けたい。	①説明会や懇談会、面談等、進路関係の情報提供や相談の場が充実しており、卒業生の合格者体験記や講演等も効果的である。職員間の情報共有を更に充実させてほしい。  ②将来どのように社会に貢献していくのかという視野を養うとともに、学力のみに依存しない、生徒一人一人の進路に合わせて、教職員も共に考える指導方法へと転換することも必要だろう。	①左記の達成状況について、学校関係者から一定の評価をいただいた。職員間の情報共有を進め、学校全体で進路支援を行う体制を構築していきたい。  ②本校の進路支援では、学習だけでなく、行事や部活動を重視している。そこでリーダーシップ、フォロワーシップ、チームワーク等の社会に貢献する上で必要な力を学ぶことができている。その上で、生徒が社会に対して関心を抱ける仕組みを作っていく必要がある。	①学年を超えた情報共有の場として、6月に進路情報共有会、1月の共通テスト結果報告会を設けているが、それ以外にも3年間を見通した支援を行える機会を設けていきたい。  ②総合的な探究の時間や、公共などの教科の中で、生徒が社会に主体的に関わるための取り組みが行われている。その一層の充実を図るべく、職員間での協議を進めていきたい。
		②生徒一人ひとりが学習や進路の目標を実現できるように、全職員がそれぞれの立場で生徒を支援する体制を構築する。	②学級運営や授業、普段の声掛け等に生かせるよう、進路支援に関する情報を全職員に向けて発信していく。						
4	地域等との協働	○地域等との協働を推進し、地域に開かれ、信頼される学校づくりをめざす。	○地域からの理解が深まるように、時宜に応じた教育活動や情報発信を行う。	○地域貢献活動や環境に配慮した活動を継続して行う。  ○小・中学生対象の説明会等やホームページを通して、本校の教育活動を広く紹介する。	○地域貢献活動が適切に実施できたか。  ○説明会参加者数の拡大、及びホームページの更新が推進されたか。	○地域貢献活動として、学校周辺や校外行事の活動場所周辺の清掃を行った。  ○夏・秋に中学生対象学校説明会、11月に小学生フェスティバルを実施した。	○清掃用具が十分ではない。  ○秋の説明会では欠席が多く、申し込み時期を検討する必要がある。	○清掃以外の地域との協働作業や部活動による地域貢献等、教育課程の実現にも繋がる「湘南らしい」地域貢献を検討してほしい。  ○学校説明会参加者の満足度が高く、評価できる。小学校生フェスティバルも高校生の実態を知る重要な行事であり、現役生のより多い参画や部活動見学の導入等、更なる充実に期待したい。	○地域清掃は、全生徒が地域との関りを意識する良い機会となった。さらに地域に貢献する機会を設けることが望まれる。  ○学校説明会、小学生フェスティバル、中学校での学校説明会への参加を通して、本校の教育内容の紹介ができた。また、ホームページを通して生徒の活動の成果も紹介することができた。
5	学校管理 学校運営	①地域から信頼される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底するとともに、日常的、継続的な環境整備、防災対策に取り組む。  ②教職員の働き方改革推進のために、職場の環境的・制度的改革を図り、教育活動の更なる充実に資する。	①事故・不祥事の防止を徹底するため、日常的に職員間の合意形成に取り組む。  ②教職員の働き方改革推進のために、衛生委員会などを活用し、職場の環境的・制度的改革を図り、教育活動の更なる充実に資する。	①対外的なやり取りにおいて、丁寧で迅速明確な対応を実践する。また、環境整備や防災訓練などを通じて、社会の未来が幸福なものとなるよう生徒の意識を育てる。  ②長時間勤務の是正、業務の均等化等を推進し、労働が生きがいを感じられるような職場の在り方の追求に取り組んだ。	①環境整備や防災に関する生徒の意識を高めることができたか。  ②職員が、労働が生きがいと感じられるような職場の在り方の追求に取り組んだか。	①集団下校班訓練、夏季休業前の南海トラフ地震に向けた意識喚起講話、避難訓練、1年D I G訓練・簡易トイレ設置訓練などで防災に関する生徒の意識を高めることができた。  ②職場環境アンケートを実施し、職員が、労働が生きがいと感じられるような職場の在り方追求に取り組んだ。	①生徒環境整備委員や担当職員以外の環境整備、防災に関する意識は十分とは言えない  ②職場環境アンケートに寄せられた改善要望は、職員意識の共有や協力、予算的裏付けが必要で、解決改善までに時間のかかりそうなものも少なくないが、やれることから取り組んでいきたい。	①生徒の防災意識の向上に資する訓練等は、地域としても非常に重要である。教科横断的な指導をはじめ、生徒による避難所運営訓練等も視野に入れ、引き続き意識の醸成に努めていただきたい。  ②教職員個人として、または学校全体としてできること、短期的または長期的に改善することについて、それぞれの目標を掲げ、職を取り組む必要があるだろう。	①全国各地で甚大な災害が発生する中で、教科・教科外活動に多忙な生徒に対し、計画的・効果的な防災教育を通して、防災に関する意識を高めることができた。  ②教職員個人として、または学校全体としてできること、短期的または長期的に改善することについて、それぞれの目標を掲げ、職員意識の共有や協力、予算の確保に努めたい。

